

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立谷川小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-3106

愛知県豊橋市中原町東ノ谷1番地の3

E-mail tanigawa-e@toyohashi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 39名 女子 38名 合計 77名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「自然を愛し、自然に学ぶ谷川っ子」をテーマとし、地域の教育力を積極的に取り入れた特色ある学校づくりの一環とESD活動と捉えている。ESDの実践を通して、ふるさとを愛する心と地域とのかかわりの中から課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく活動できる力の育成を目標とした。

具体的には、環境、伝統文化を柱に、①3年「みかん大好き」に関わる学習、②4年「ホタルのすむ里 谷川」に関わる学習、③5年「育てよう谷川米」に関わる学習、④全校「民芸教室」に関わる活動、⑤全校「菊づくり」に関わる活動を行った。

① 3年「みかん大好き」に関わる学習

校庭のみかん園には、30本ほどの早生、ネーブル、清見、甘夏などが植えられている。4月に甘夏の収穫をし、総合的な学習をスタート。7月には、地域のみかん博士に教えていただきながら、摘果作業をした。育て方や種類、栄養など一人一人がテーマをもって調べ学習を進め、観察と世話を続けて、11月には甘く実った温州みかんをたくさん収穫した。また、1年間の学習のまとめとして、2年生や保護者、みかん博士を招待して発表会を行い、学習の成果を発表した。

② 4年「ホタルのすむ里 谷川」に関わる学習

ホタルの飼育を通して環境問題を考える活動に取り組んだ。6月には例年どおり美しい光を放ってホタルが飛び、全校や地域に呼びかけ、連日観察数を全校放送で知らせた。今年は、卵から10000匹以上孵化し、毎日餌のカワニナやキャベツの様子を見て、水槽の温度管理や掃除を続け、11月には294匹をホタル園と半尻川に放流することができた。1年間ホタルについて追究してきた成果を、全校集会や地域のホタル保存会例会で発表し、豊かな校区の自然環境を守っていこうという意識が高まった。

③ 5年「育てよう谷川米」に関わる学習

5月末に地域の方の田んぼを借りて、田植えをした。秋になると、黄金色に実った稲穂を収穫した。今年は田んぼがぬかるんで機械でできず、ほとんど手作業で稲刈りした。農家の方々の苦勞がわかり、一粒の米も大切に扱う気持ちが芽生えた。11月に脱穀し、123Kgとれた。

収穫した米でおにぎり作り、「お米感謝の会」で地域ボランティアの方にふるまったり、民芸教室で五平餅を作って食べたりした。1年間を通して追究してきた成果をパワーポイントにまとめて、保護者や全校児童、地域ボランティアの方に発表した。

④ 全校「民芸教室」に関わる活動

校区の竹や数珠玉などの自然素材を生かしながら伝承遊びの道具を制作したり、お年寄りから遊び方を教えていただいたりする今年で36回目を迎えた伝統行事である。お年寄りの方々の生き方にふれ、思いやりの心を育むよい機会となった。

⑤ 全校「菊づくり」に関わる活動

地域の方から菊づくりを学び、1～3年生はドーム型の小菊、4～6年生は3本立ての大菊を一人一鉢育てた。11月に美しい花を咲かせ、地域の文化祭や校庭を彩った。



① 3年「みかんの収穫」



② 4年「ホタル園に放流」



③ 5年「谷川米の稲刈り」



④ 民芸教室「竹馬づくり」



⑤ 全校「菊づくり」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 問題解決力, ふるさとを愛する心・態度)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 朝の帯時間, 学校行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・書籍「お米なんでも図鑑」「イネ—米ができるまで—」「都道府県別 米データ集」「ミカンの絵本」「みかんのひみつ」「食べるのだいすき」「こどもしぜんずかん 8 みかん」「日本産業シリーズ3 みかんがとどくまで」「学研の図鑑 くだもの」「野菜, 草花, 果樹, 庭木の病害虫がわかる本」
- ・ウェブ「www.komenet.jp」「米 都道府県データランキング」「ホタルの種類と分布」「ホタルはなぜ光る」「ホタルの生態」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

① 3年「みかん大好き」に関わる学習, ② 4年「ホタルのすむ里 谷川」に関わる学習, ③ 5年「育てよう谷川米」に関わる学習については, 総合的な学習の時間に位置づけ, 内容はその年の児童の興味関心にそって弾力的に単元を構想している。主体的な学習ができるように, 問題解決的に授業を組み, 教科との関連を図りながら指導する。学習のまとめには, 地域, 保護者, 他学年へ発表する機会も位置付けている。

④ 全校「民芸教室」に関わる活動については, 学校行事として地域ボランティアの方々から, 地域の素材を生かした制作活動・伝承遊びについて教えていただき, 生き方について学ぶ機会としている。

⑤ 全校「菊づくり」に関わる活動については, 朝の帯時間を利用して, 一人一鉢の栽培活動を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため, どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育課程に位置づけるとともに, どの活動も地域ボランティアの協力を得て, 毎年継続して取り組み, 活動を推進している。

特に, 民芸教室は, 校区社教と学校が共催の形をとり, 校区自治会, 地域老人会, PTA の参加を得て行っている。

また, ホタル保護活動については, 地域のホタル保存会を立ち上げ, 協力して推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本年度の重点努力目標の中に明記し, 内部・外部の学校評価の項目としてあげて, 児童・教職員・保護者・地域にアンケートを取り, 評価していただき, PDCA サイクルで改善に努めている。

「自然とのかかわりが深く, 大変よい」と高評価をいただいた。発表から, 内容だけでなく思考力・判断力・表現力も育ってきて, 少しずつ成果が表れている。若い世代の地域教育ボランティアの募集を推進していくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

②4年「ホタルのすむ里 谷川」に関わる学習では、ホタルの飛翔観察・飼育状況について「ホタル通信」を作成し、自治会を通して校区の家庭へ回覧板に入れて紹介している。また、2月に行われる「ホタル保存会例会」では、1年間の飼育と研究の成果を発表し、地域の自然保護の推進を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、特に行っていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール豊橋大会では、本校のESD活動についてポスター発表の形で参加した。また、教員2名が豊橋大会(研究校発表、シンポジウム、講演会、ポスターセッション、分科会)に参加し、指導法やカリキュラムなどについて研修した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は、ESD 活動を通して、問題解決型の学習に積極的に取り組むことができ、個人の課題を追究したり協働して学習に取り組んだりする力が育ってきた。

ユネスコスクール豊橋大会に参加したことで、他校のESD活動について詳しく知ることができ、教授法やカリキュラムについて振り返ることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も引き続き、「自然を愛し、自然に学ぶ谷川っ子」をテーマとし、地域の教育力を積極的に取り入れた特色ある学校づくりの一環としてESD活動に取り組む。

ESDの実践を通して、ふるさとを愛する心と、地域とのかかわりの中から課題を見つけ、主体的に追究し、まとめたことを発信する力の育成を目標とする。地域の環境や伝統文化を守りながら、よりよくしていこうとする思いを高めたい。

具体的には、

- ①3年「みかん大好き」に関わる学習
- ②4年「ホタルのすむ里 谷川」に関わる学習
- ③5年「育てよう谷川米」に関わる学習
- ④全校「民芸教室」に関わる活動
- ⑤全校「菊づくり」に関わる活動

について継続して取り組む。